

表1 佐伯湾赤潮プランクトン調査結果 令和5年8月1日 単位:細胞数/ml

採集地点	調査時間	水深 (m)	水温 (°C)	塩分 (PSU)	DO (mg/l)	シャットネラ sp.	カレニア ・ミキモイ	ヘテロシグマ ・アカシオ	クロロティニウム ホリクリコイテス
1. 夏井沖	8:58	0	25.6	32.63	7.9	1	0	0	0
		5	23.1	33.11	7.5	20	0	0	0
		15	22.3	33.18	7.3	28	0	0	0
		25	22.0	33.22	7.6	19	0	0	0
		35	21.7	33.27	7.2	16	0	0	0
		41.5	21.2	33.41	6.0	3	0	0	
2. 長田沖	9:20	0	25.4	32.86	8.0	0	3	1	0
		5	22.2	33.20	7.6	10	0	0	0
3. 片白島						欠測			
4. 小田代						欠測			
5. 沖松浦漁港						欠測			
6. 鶴見振興局裏						欠測			
7. 鶴見ボンツーン						欠測			
8. 石間						欠測			
9. 霞ヶ浦						欠測			
10. 守後						欠測			
11. 片神						欠測			
12. 片神～彦島						欠測			
13. 水試前						欠測			

※0mの水温・塩分・DOはクロロテックの0.5mの測定データによる

※st.3～st.13は8月3日調査予定

参考:赤潮注意・警戒密度(単位:細胞数/ml)

赤潮プランクトン	注意密度	警戒密度
シャットネラ spp.	10以上	100以上
ヘテロシグマ・アカシオ	5000以上	50000以上
カレニア・ミキモイ	200以上	2000以上
クロロティニウム・ホリクリコイテス	30以上	300以上

*警戒密度は漁業被害が想定される密度です。

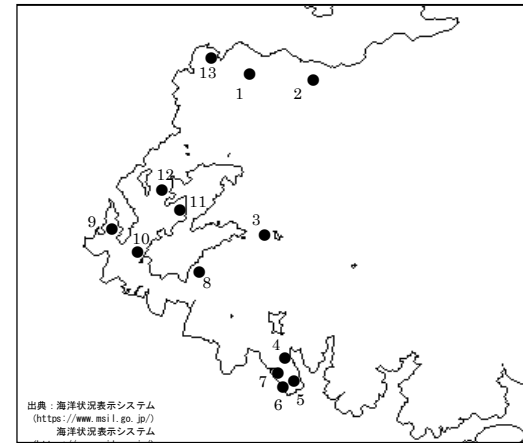
*アヒ、サエ等ではカレニア・ミキモイで100～200細胞/mlで斃死する可能性があります。

*マグロに関しては、赤潮注意・警戒密度に1/10を乗じた細胞密度とします。

連絡事項

有害プランクトンのシャットネラsp.とカレニア・ミキモイ、ヘテロシグマ・アカシオが確認されました。

今後の細胞密度の推移にご注意下さい。



出典:海洋状況表示システム
(<https://www.msil.go.jp/>)
海洋状況表示システム
(<https://www.msif.go.jp/>)
を加工して作成

図. 調査定点図